

支える人を支える 京都の 福祉

府社協 HP



公式 X



『京都の福祉』は福祉関係者に福祉の課題や情報を提供する
「京都府社会福祉協議会」(府社協)が発行する広報誌です

2026
7月号
no.626

▼2ページ

「受けてよかった」を次の学びへ
進化する京都府福祉人材・研修センターの「研修」



● 社協のメディア発信の今 ▼4ページ
● 令和7年度事業報告・決算報告 ▼6ページ

もえくさ



N.K

「頼れる身寄りのない高齢者等」の増加が社会の切実な課題となっている。頼れる家族がないために、入院時の手続きや葬儀・家財処分などに不安を抱える高齢者等は少なくない。こうした人たちに対する地域での支援を強化するために、先月、社会福祉法が一部改正された。

改正により、日常生活から死後事務までを一体的に支援する新たな「第二種社会福祉事業」が創設される。2040年には単身高齢者世帯が約900万に達するといわれている。一人ひとりの尊厳が守られ、豊かな高齢期が過ごせるように、公共性の高いセーフティネットとして機能させることが重要だ。

新事業は、多様な主体の参入が認められている。利用者保護を軽んじるような悪質な事業者の参入を防ぐことと、担い手として期待される社協の基盤整備がなければ絵に描いた餅になる。

誰もが最期まで自分らしく暮らせる地域社会を実現するためには、福祉関係者の善意に頼るのではなく、国は十分な財源を確保するために尽力してほしい。



「受けてよかった」を次の学びへ

進化する 京都府福祉人材・研修センターの「研修」

人材研修センターの研修カリキュラムは、変化を重ねています。今年度の注目は、過去のセミナーから発展して4部作になった、コミュニケーションスキル講座。この講座が生まれた背景を紹介します。

人気のコミュニケーションシリーズ

働く人も利用者も幸せになれる環境づくりを目指す研修。伝える力・聴く力を基礎から実践まで学び、組織の風通しを良くするスキルを習得します。初任者から管理職まで全階層を対象とし、現場のコミュニケーションを円滑にします。

2023年にスタートした「会話力・要約力セミナー」は、伝える力を養うコミュニケーション基礎研修です。当初は初任者向けに始まりましたが、マネジメント層からも受講を希望する声が多く、現在は全階層を対象とした研修へと発展しました。

具体的には、コミュニケーションの基

参加者の声

わかりやすく、丁寧に講義いただき感謝しています。傾聴力やコーチングの研修も受けたいです。



とても楽しかったです。知識に留めずアクションにつなげるまで頑張っていました。



講師2人体制でうれしかった。グループワークでも適切なアドバイスがいただけてとてもよかった。



大変勉強になりました。次は是非とも上司や同僚にも受講してもらいたいと思います。



傾聴力セミナーに引き続き参加しました。気付きを大切に、学んだことを活かしていきたいです。



研修の学びを実践して部下の育成や離職の予防、バランスの取れたチーム形成に役立てています。



4部作に発展した理由とは？

このシリーズの出発点には、「福祉現場の円滑なコミュニケーションを支えたい」「職場の心理的安全性を高め、働く人も利用者も幸せになれる職場づくりに貢献したい」という思いがあります。

出発点の「会話力・要約力」に続き、第2弾として2024年には「傾聴力セミナー」を、チームリーダー・管理者の「聴く力」向上をテーマにスタート。会話力・要約力セミナーを修了した初任者・中堅職員も加わる全階層対象の研修へと広がりました。「マネジメント層も部下とのコミュニケーションに悩んでいる」との声に添えて、2025年度は第3弾の「コーチング・マネジメント」を開催しました。さらに2026年度、新たに第4弾「コミュニケーション・スキルクエスト」を追加しました。この研修は「もっとロールプレイの機会がほしい」という受講生の声に応え、会話力・要約力・傾聴力を実践することを目的とした、ワーク中心の構成が特徴です。

これらの研修は、担当者が現場の声に向き合い、悩みをひもときながら企画を立案し、研修センターでの議論と見直しを経て、ようやく形となりました。「福祉の現場が今、何を求めているか」を問いつけることが原動力となっています。

注目の新任職員専用プログラム

「1年間、やりきったやん、私！」

で新任職員の現在地を再確認



福祉職の道を歩み始めて、気づけばもう1年。あわただしく過ぎた日々の中で、新任職員の成長や想いを振り返る時間を、どれだけ持てているでしょうか？ 本講座は、そんな新任職員のみなさんを対象に、「1年点検」の場を届けたいという思いから生まれた、府社協独自の研修です。プログラムを実施するのは、キャリアパス初任者コースを担当する講師の西川友理先生。「支援する人が元気でいることが、よい支援につながる」という信念のもと、支援者同士が安心して語り合える

場づくりを大切にできた方です。研修では、自分の価値観や支援のあり方を見つめ直し、いつの間にか身についた自身の支援の癖にも気づきながら、自分の素敵なところをあらためて確認していきます。「さまざまな種別・職種の1年目の仲間たちとのトークタイムや名刺交換会も大切なプログラムのひとつです。横のつながりが、支援者としての自分の幅を広げます」と西川先生。同じ立場の仲間と言葉を交わすことが、将来の大きな力となります。

講師・西川友理先生からのメッセージ



「毎日がむしろ目に目の前のケースに楽に眺める、そして対人援助に関わる関わる中、ようやく1年が過ぎようとしている…。そんな方々が2年目も頑張れるエネルギーになるような研修にしたい、と企画しています。自分の中をぎゅゅと見つめる、のではなく、気づいてください！」

第1弾 会話力・要約力セミナー



第2弾 傾聴力セミナー



第3弾 コーチング マネジメント



第4弾 コミュニケーション・スキルクエスト



京都府福祉人材・研修センターをご紹介します
さまざまなメニューを動画で解説しています



社協のメディア発信の今

地域のありがとうを届ける

近年、市町村社会福祉協議会（社協）では、地域のつながりづくりや地域活動への理解を深めるため、従来の広報誌に加え、SNSなど多様なメディアを駆使した情報発信が広がっています。

しかし、SNSが身近な時代においても、人と人との温かな関係性は欠かせません。より地域に根差したメディアでの発信や、温故知新の発想でラジオをYouTubeで配信している社協を取材しました。

情報を「伝える」だけでなく「伝える」工夫を、そしてその広報がより良い地域づくりに繋がるきっかけとなることを目指し、紹介します。

YouTube
ラジオ

やわたウェブ

八幡市社会福祉協議会



遊び心で、地域はもっとつながる

地域のボランティア活動紹介や社会福祉協議会からのお知らせなど、福祉や地域の話題をラジオのように気軽にトークも交えながら、わかりやすくお届けします。

● 頻度 月2回 ● 開始時期 令和8年2月から
● 発信方法 事務所で録音しYouTubeで配信
● 視聴者数 (YouTube登録者数) 100人

令和7年度「みんなで創る福祉のつどい」の開催に向けて配信を開始し、令和8年度も月2回の配信を目標に取り組んでいます。社協の活動や、地域・ボランティア活動を伝えようとする、数居が高くなってしまうことに課題を感じ、声、だからこそ伝わる雰囲気やあたたかさを大切に、もっと活動を身近に知ってもらえるよう、戦略的かつエンターテインメント性をもつて、配信しています。

地域住民からは「これからも続けてや」と応援の言葉をもらうなど、住民間でも拡散、浸透し始めています。あえてこだわりすぎず、AIも活用しながら無理なく誰でも継続できるように工夫をしています。

「出演したい」という声も多方面からあり、住民参加型の地域メディアとして発展させ、いつかは地域福祉の入り口として「気づけば地域や人とのつながりに触れていた」という住民が増えるよう、継続していきたいです。

ケーブル
テレビ

ふくしミライTV

南丹市社会福祉協議会



つたえる・つくる・つなぐ ～社協が伝えたい地域の魅力～

南丹市社協が地域の皆様と一緒に創るふくしの情報番組。

● 頻度 毎月第2木曜日から1週間 (KCN なんたんで15分コーナー、1日に4回放送)
● 開始時期 令和5年12月から
● 発信方法 企画・取材→南丹市社協、動画作成・編集→南丹市社協もしくはKCN なんたん
● 視聴者数 (契約世帯) 約11,000世帯

テレビ局からの声かけをきっかけに、「まずはやってみよう」と部署横断のメンバーで小さくスタートし、現在は地域支援課の事業として展開しています。番組制作は、必要な人に情報を「つたえる」、地域を知り関わる「きっかけをつくる」、人や活動団体を「つなぐ」ことを大切にしています。

各地域の魅力ある活動を広く紹介することで、身近に感じてもらうことはもちろん、声優志望の学生や、音訳ボランティア、福祉教育で繋がった小学生、動画作成が得意な地域住民などにも声をかけ、地域全体で番組をつくることを目指しています。

番組を観た住民さんからは「社協ってこんなこととしてはるんやね」との声も。今後、地域の声を丁寧に届けながら活動が生まれ、広がっていくメディアとして、さらに発展させていきたいと考えています。

新聞 社協のかわらばん

福知山市社会福祉協議会



©両丹日日新聞社提供

声を届け、声に支えられる ～想いの循環が、地域を動かす～

福知山市社協が市民に伝えたい地域福祉に関する事業、住民が実践する地域福祉活動などを新聞で紹介。

● 頻度 隔週木曜日 ● 開始時期 令和5年1月から
● 発信方法 地域担当職員が記事を作成、両丹日日新聞に掲載
● 読者数 福知山市内で37,123世帯(令和8年4月末現在)うち約16,600世帯に配布

新聞社から創立70周年を記念して何かできないかと提案をいただき、連載することになりました。連載をするにあたり、社協事業の紹介だけでなく地域福祉活動や民生児童委員の皆さん、ご本人(当事者)や福祉専門職などにも焦点をあて、普段の暮らしや想いが伝わる記事になるよう心掛けています。サロン活動など何気ない営みにも「見守り」や「介護予防」といった福祉的価値があることを、福祉に関わるワーカーとして言葉紡ぎ、意味づけすることも大切に行っています。

記事には書き手の名前と似顔絵を載せることで、たくさんの方の反響をもらえるようになりました。能登半島地震について、現地にいった様子を掲載した際には「自分ができることはないか」と地域の方からお声をいただき、行動につながるきっかけになったこともありました。

社協の活動は地域住民の声なしでは取り組むことはできません。取材は住民の声を直接聞く貴重な機会です。声を届け合うことで、お互いに勇気をもったり、原動力になればと考えています。

社協のSNSをのぞいてみた！



亀岡市社会福祉協議会

コロナ禍の会えない時代に、つながるきっかけを



伊根町社会福祉協議会

若い世代に社協を知ってもらう、地域に関心を持つてほしいとの思いから令和3年9月にSNS発信を開始し、週1回以上の投稿を継続しています。写真は温かな雰囲気が出せる場面を意識し、文章には参加者の表情や会話を盛り込む工夫しています。特に、離れて暮らす高齢者の家族へ、「元気に暮らしている様子を届けたい」との思いを大切に投稿し、実際にお孫さんが連絡をくれたこともありました。



宇治田原町社会福祉協議会

町の様子もこまめに配信、親しみやすさを大切に社協事業に加え、関係機関の活動や、認知症カフェの情報、町の季節の風景などもこまめに発信し、親しみやすさを大切にしています。発信は町外にも広がり、車いす寄付の記事をきっかけに新たな車いす寄贈につながるなど、情報発信が地域とのつながりや新たな支援の輪を広げる効果を生んでいます。



精華町社会福祉協議会

”知る”が”つながる”きっかけに

「リアルタイムで事実を見せる、事前に告知する」を意識し、写真やデザインを重視した情報発信を行っています。公式LINEによる「絆カフェ」の無料クーポン配信や助成金情報の発信をきっかけに、住民の参加・相談や福祉活動団体との対話が生まれ、地域課題や活動への思いをお伺いする機会にもつながっています。



向日市社会福祉協議会

公式LINEでの配信を通してイベント参加者の増加につながったほか、70周年記念に市内約70か所の事業所や商店に協力いただき行ったスタンプリーをきっかけに登録促進や市内事業所との新たなつながりが生まれ、現在では食料寄付など地域連携の広がりにもつながっています。



和束町、笠置町、南山城村 社会福祉協議会

動画で魅せる！3つの地域の「支え愛とステキな日常」平成17年に「わかさみなぎる地域の支え愛協議会」を設立。地元の人々や地域資源を活かした交流事業を展開し、子育て世帯の参加も年々増加しています。令和3年からはYouTube「わかみなぎるチャンネル」を開設し、地域の協力を得て、これまでに34本の動画を制作、地域の魅力や人と人、人と地域が繋がる活動を発信しています。顔の見える交流と合わせて、3町村のつながりをより深め、広げる地域づくりに役立てています。



一緒に全力で
楽しみながら、
子どもたちの成長に
寄り添っていききたい

せいじん保育園 保育士 ● 浦井 美佳さん

◆この職場を選んだ決め手は？

自然が豊かで、野菜や果物の栽培など食育活動にも力を入れている環境に魅力を感じました。

◆職場のいいところ

年齢や経験に関係なく相談しやすく、「一人ではなく、みんなで保育している」と感じられる温かい職場です。

◆休日の過ごし方

友人とランチに出かけたり、買い物をしたりしてリフレッシュしています。

【施設名】(福)清仁福祉会 せいじん保育園
【場所】京都府城陽市富野西田部 64 番 1
【URL】http://www.seijin-hoikuen.jp
【TEL】0774-53-1300
【FAX】0774-52-3318

浦井美佳さんが保育士を目指したきっかけは、幼少期の経験でした。「幼い頃通っていた保育園の先生が大好きだったんです。いつも優しく笑顔で、その先生みたくになりたいと思いました」。その念願が叶い、せいじん保育園へ就職。今年で4年目を迎えます。現在は4歳児クラスを担当し、子どもたちの成長を間近で見守っています。

「大人が楽しくないと、子どもたちも楽しくないと思うんです。自分が率先して楽しんで、子どもと一緒に遊び込むことを大事にしています」。遊びの中でも手を抜かず、本気で関わることで、子どもたちの意欲や運動能力も自然と育っていくと感じています。

「子どもたちからの『先生、大好き！』という言葉が、何よりのやりがいになっています」。

これからも一緒に全力で楽しむことを大切にしながら、成長に寄り添っていききたい。浦井さんの真っ直ぐな眼差しの中には、子どもたちの笑顔が広がっていました。

令和7年度 京都府社会福祉協議会 事業報告・決算報告

1 つながり、支え合う住民参画による福祉の地域づくりの推進

- きょうと地域福祉活動実践交流会
- ・「乙訓防災万博」いのち輝く防災デザイン」をテーマに向日市で開催
- 福祉教育学びのプラットフォーム
- ・学校・社協・関係機関の連携について情報交換、新たなつながりを生むきっかけづくりを学ぶために開催
- 2 困りごとをとりこぼさない支援活動の推進
- 生活福祉資金コロナ特例貸付制度フォローアップ支援の推進
- ・借受人世帯の生活相談や償還支援、関係機関と連携した地域のセーフティーネットの充実に実施
- 重層的支援体制構築市町村後方支援事業の実施
- ・包括的支援体制構築に向けたモデル事業や検討会の実施、市町村間情報共有ネットワーク会議の開催
- 総合的な地域福祉権利擁護の推進
- ・総合的な権利擁護検討会を開催し、地域福祉権利擁護事業利用者への支援拡充（死後事務、入退院支援等）、意思表明の仕組みの整備を検討
- ・町社協との協働による法人後見を実施

3 地域福祉の推進を担う市町村社協との連携協働と活動支援

- 社協オンラインサロンの開催
- ・地域福祉や社協を取り巻く情勢をテーマに開催
- 4 社会福祉法人・福祉施設の経営支援と連携協働
- 介護・福祉職場業務改善支援センター事業の推進
- ・生産性向上推進セミナーや相談窓口設置、モデル事業所への伴走支援
- 地域福祉に携わる人材の確保・育成・定着支援の推進
- 京都府外国人介護人材支援センター事業の実施
- ・介護技術向上研修や日本語能力向上研修、外国人介護人材の受入れに係るセミナー等の開催
- 支える人のエンパワメントを目指す学びとつながりの場づくり
- ・階層別・課題別・種別研修や資格取得のための法定研修の実施
- 6 こども未来プロジェクトの推進
- 京都府きょうとこどもの城等特別支援事業の実施
- ・物価高騰により厳しい運営が続く子ども食堂等に、市町村社協や社会福

7 大規模災害等非常時に対応できる支援体制づくり

- 京都府災害ボランティアセンター運営
- ・「能登きまつしかフェ」の開催（3回）や設立20周年記念事業の実施
- 京都 DWA T 活動の推進
- ・福祉避難サポーターリーダー研修や奈良・大阪との合同研修の実施
- 8 京都府社協の経営基盤強化
- 府民交流フェスタへの出展
- ・市町村社協マスコットキャラクターの釣りゲームと福祉職啓発コーナー
- 京都府知事と福祉関係団体懇談会

令和7年度一般会計決算の概要

一般会計 実質収支のまとめ		(単位：千円)	
	令和7年度決算(A)	令和6年度決算(B)	差異(A-B)
事業収入	577,880	627,902	△ 50,022
事業支出	543,725	630,080	△ 86,355
事業収支差額	34,155	△ 2,178	36,333
施設整備収入	0	0	0
施設整備支出	0	439	△ 439
施設整備等差額	0	△ 439	439
その他の収入	98,013	3,015	94,998
その他の支出	131,672	2	131,670
その他の収支差額	△ 33,659	3,013	△ 36,672
当期収支差額	496	396	100

(注) 実質的収支とは、本会の事業運営に関わる収支を示すもので、退職金支給にかかる収支、貸付事業の貸付金・償還金、ボランティア基金サービス区分及び会計区分間の収支を除外しています。

生活福祉資金会計の概要

生活福祉資金には、教育資金の貸付（教育支援資金）、一時的に必要な経費の貸付（福祉資金）、失業等によってお困りの方への貸付（総合支援資金）などがあります。令和7年度の生活福祉資金（本則）貸付金、償還金の状況は下記のとおりです。

		(単位：千円)	
	令和7年度決算(A)	令和6年度決算(B)	増減(A-B)
貸付	396,754	453,314	△ 56,560
償還	546,803	556,944	△ 10,141

令和7年度の生活福祉資金（特例）償還金の状況は下記のとおりです。

		(単位：千円)	
	令和7年度決算(A)	令和6年度決算(B)	増減(A-B)
償還	953,290	1,251,195	△ 297,905

ご寄付・ご寄贈ありがとうございました。
ご芳志の趣旨に沿い活用させていただきます。

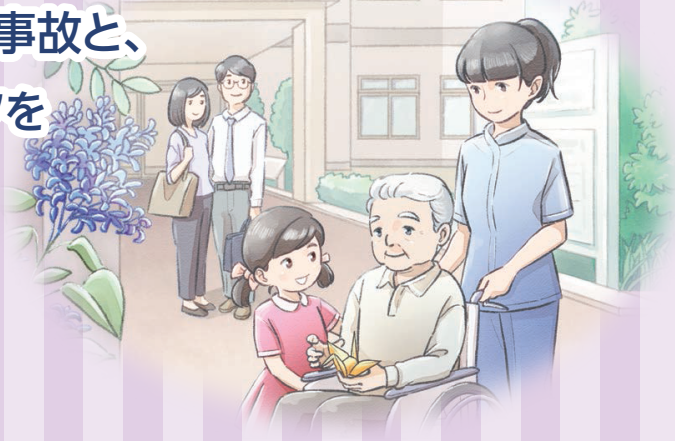
寄付 令和8年4月28日
『株式会社アミバラ アミバラ久御山店』様 300,000 円
令和8年5月22日
『第四回京の活動写真下鴨映画祭 ご来場者有志』様 35,000 円

寄贈 令和8年4月16日
『株式会社辰馬コーポレーション』様 冷凍おむすび（65,000 円相当）



令和8年度版

社会福祉法人等が経営、運営する
福祉施設・事業の賠償・傷害事故と、
法人の経営にともなうリスクを
幅広く補償します。



しせつの損害補償

「しせつの損害補償」に新たな加入方式「法人包括プラン」ができました。従来の「しせつの損害補償（施設単位加入）」と「法人包括プラン（法人包括加入）」のいずれかを選択・加入できます。

法人包括プラン NEW

「法人包括プラン」は、福祉施設・事業を経営・運営する社会福祉法人が加入対象です。（社会福祉協議会を除く）

第1種
社会福祉事業

第2種
社会福祉事業

全ての
施設・事業を
自動補償

収益事業

公益事業

ポイント1 安心

福祉施設（事業）の明細要らずで、全ての福祉施設・事業を賠償事故からまとめて補償

ポイント2 便利

期中で新たに始めた福祉施設（事業）も手続き不要で自動補償

ポイント3 簡単

契約時は全ての入所型・通所型施設の合計定員数の申告のみ（保育所は別途加入）

しせつの損害補償 （従来の加入方式）

従来のしせつの損害補償は、社会福祉法人、社会福祉協議会、公立福祉施設（自治体）、NPO法人、公益社団法人、公益財団法人が加入対象です。

「法人包括プラン」・「しせつの損害補償（従来の加入方式）」ともプラン1～4は、共通内容です。

プラン1 施設業務の補償

プラン2 施設利用者の補償

プラン3 職員等の補償

プラン4 法人役員等の補償

見積作成・加入手続きは簡単便利なインターネットから!!

PCからの場合は、**ふくしの保険 検索**
<https://www.fukushihoken.co.jp/> よりアクセス!!



スマートフォンやタブレットの場合は
こちらの二次元コードよりホーム
ページにアクセスしてください。



● このご案内は概要を説明したものです。詳細は「しせつの損害補償」手引またはホームページをご参照ください。●

団体契約者 **社会福祉法人 全国社会福祉協議会**

〈引受幹事
保険会社〉 損害保険ジャパン株式会社 医療・福祉開発部 第二課
TEL：03（3349）5137

受付時間：平日の9:00～17:00（土日・祝日、年末年始を除きます。）

取扱代理店 **株式会社 福祉保険サービス**

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F
TEL：03（3581）4667

受付時間：平日の9:30～17:30（土日・祝日、年末年始を除きます。）

（SJ25-11172 より抜粋）